

支援の手だてリスト(具体例)

		③ 見た数を答えよう	
		見た内容を少しの間記憶しておく力	
		全体への支援	より個別的な支援(教材の工夫など)
5	教材・教具	7) ・語句の区切りが分かるよう線を入れる ・指でなぞりながら読ませたり、ものさしを当て行を変えたりして読みやすい工夫をする ・1行だけ見えるように切り抜いた板目紙を活用する ・漢字に振り仮名を振る ・文字を拡大した教科書を使う 8) ・ICT覚機器を活用し、文字の大きさや字体を変えて、読みやすい工夫をする 9) ・説明の際には、分かりやすい具体物や写真、図などの手がかりを使い、言葉による説明で補う	
6	板書の工夫 ノート指導	10) ・枠や色チョーク、アンダーラインなどを活用し大事なところは強調する ・分かち書きや余白を取り入れ、意味のまとまりを分かりやすく示す ・指示棒やレーザーポインタを使い注目させる ・コンピュータやプロジェクタを活用し、大事なところに注目しやすいように工夫する 11) ・授業の流れが分かりやすい板書をする ・同じ教科ではある程度パターン化した板書にする ・ノートをとるところを分かりやすく示す ・文字を大きくする ・1単位時間の内容が分かるように構造的に板書する 12) ・授業の中で書く活動の時間に配慮する ・書かせるところを囲むなどして強調する 13) ・日付、見出し、囲み、下線、記号などノートのとり方について共通理解しておく ・漢字の部首への意識、文字の重なりを防ぐためにマス目を活用する ・筆算を書く位置、問題と答えの書き方など、学級で統一した書き方を、分かりやすい言葉で指導する ・計算を書く範囲を赤枠で示す 14) ・話を聞きながら書かせるのではなく、書くだけの時間を十分に確保する 15) ・色チョークや囲み、下線などで大切な部分を目立たせ、分かりやすくする ・授業の流れが分かりやすい板書をする	12) ・板書をすべて書かせずに必要なところだけ書かせるようにする ・板書の転記は、ノートだけではなく、穴埋め式のワークシートを活用し、書く負担を軽減する 13) ・方眼あるいは白抜きのマス目ノートを使い、桁がずれないように気を付けさせる ・繰り上がったたり繰り下がったたりした数の記入場所を決める